

姫天だより

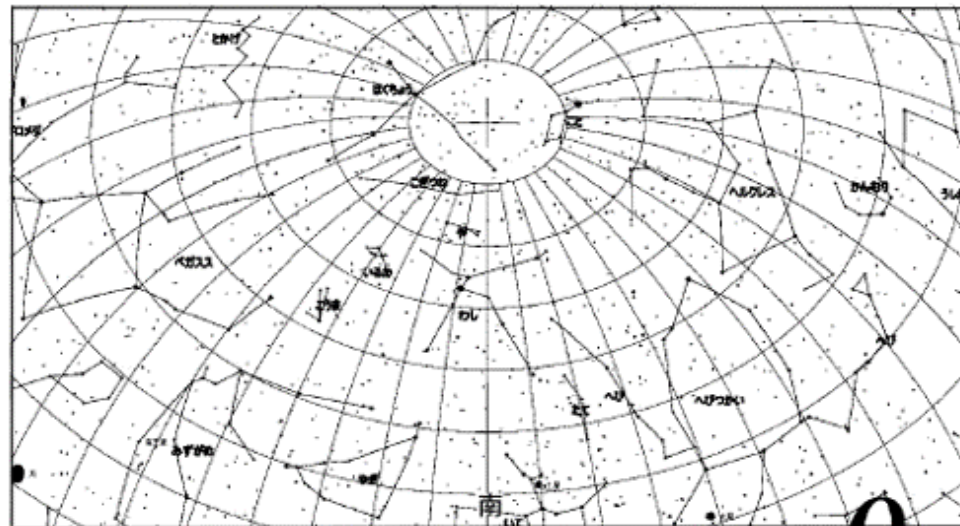
★今月のテーマ 星祭り中秋の名月を観る会

今年中秋の名月(旧暦8月15日)は9月13日金曜日です。姫治天文台では前の土曜日(7日土曜日)にお月見の会を開きます。

旧暦の8月15日の晩は、一般に名月、十五夜といわれ、昔からお月見の日として、親しまれてきました。名月を觀賞しながら、酒をくみかわし、詩歌や俳諧をつくり、風流をたしなむというもので、年中行事の中では、もっともみやびやかなものです。こうした風習は中国で生まれ、朝鮮・日本に伝わり、上流階級で行われていたのが、民間に伝わったものといわれています。皆さんも私たちと一緒にお月見をしませんか？

最近のお月見のすずきは、花屋さんで買う時代になったそうですが、都会と違って地方都市では、注意して探してみればまだまだ近くで手に入れることができます。今年はみなさんもすずきを飾って、お月見団子をお供えしてみませんか。

このお月見団子も地域によって異なっています。姫治地区センターでは、芋名月にちなんで、里芋の形をしたお月見団子をお供えしています。



9月15日午後8時の南の空

9月号
2019

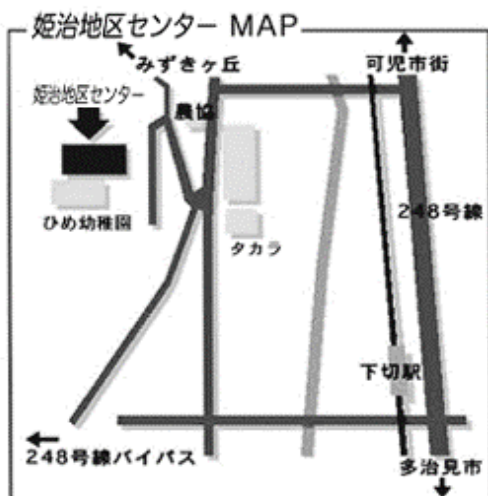
-次回の天文クラブ-

●中秋の名月を見る会

9月7日(土)午後7時30分より
月の観察
夏の星座教室

●後の月をみる会

10月5日(土)午後7時30分より
月の観察
秋の星座観察



JR太多線下切駅より徒歩13分

2019年9月1日発行

※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター (62-0104) まで

★今月の星座 や座

えっ、何？そんな星座があるの、と皆さんの声が聞こえてきそうですが、9月の中旬午後8時頃に頭の上に見られるこの星座は、織姫と彦星の間というより彦星の北に光っている2個の4等星と2個の5等星で細長いY字形に小さな矢の形を描いています。明るい可児の町で見つけるのは大変だと思いますが、月のない暗い晩には比較的簡単に見つけられますし、皆さんの家にある低倍率のオペラグラス(双眼鏡)で観れば街中でも楽に見られます。全天で3番目に小さな暗い星座ですが、その形からか古くギリシアの昔からオイストス(矢)として知られプロトマイオスの48星座のひとつにも入っています。

この矢については、ヘルクレスが12の仕事のひとつとしてステュムファロスの沼に住む、怪鳥を退治したときの矢であるとか、先月の星座で紹介した医神アスクレピオスが大神ゼウスの雷電によって殺されたとき、怒ったアスクレピオスの父アポロンが雷電の矢を作った一つ目の巨人キュクロプスをたおした矢であるとか、さまざまな神話に出てくる矢とされていますが、皆さんにもっともよく知られているのは愛の神エロス(キューピッド)の矢とされているお話です。この矢には神通力があり、黄金の矢で射られると恋心をおこし、鉛の矢で射られると100年の恋もすぐにさめてしまうといわれます。しかし、この星座が織姫星と彦星の間にあることを思うと、ギリシア神話と中国の伝説とはいえ、七夕伝説の2人にはキューピッドの恋の矢が刺さっていると考えたほうが、ロマンティックだと思いませんか。

姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
☎0574-62-0104
姫治天文台
<http://himeziten.yu-yake.com/>